

メーデーの歴史を受け継ぎ 労働運動の戦闘的再生を！

日刊
動労千葉

87. 5. 6

No. 2542

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

5・1県下各地区メーデーに 動労千葉150名参加

五月一日、県下各地区でメーデーが開催され、動労千葉は、中江―北原選挙闘争の圧倒的勝利、「分割・民営化」阻止闘争の切り拓いた地平と成果をひたして、県下の労働者と共にメーデーに参加した。今日、日帝危機の下での戦争国家化のすさまじい攻撃と労働者人民への全ての犠牲の転嫁、大量首切りと権利剥奪、増税と福祉切り捨て。そうした攻撃に対決しようともせず敵の先兵になり果てて、いる革マル―鉄道労連をはじめとした全労協指導部。こうした反動のさかまく状況のなかで、ますます屈服と混迷を深める社・共既成指導部。メーデーに参加し、いまほど本当に、たたかう労働運動の再生・復権が求められている時はないと実感した。反動の嵐を打ち破り、屈服を拒否して断固たたかいぬこう！一人ひとりの組合員の英知を結集し、「八〇年代に通用する自前の労働運動」を強固な団結でつくりあげよう！

県下各地区のメーデーに参加

五月一日のメーデーは、県下各地で開催され、動労千葉は、県中央、船橋地区、木更津地区、安房地区、夷隈地区、佐倉地区、銚子地区とそれぞれ参加し、合計一五〇名でたたかいぬいてきた。

そもそもメーデーは、一八八六年アメリカ・シカゴの労働者が「八時間労働制」を求め、流血の弾圧に抗し、ストライキへと起ち上っていったたたかいを記念した行事である。

日本においても戦後まもなくの、権力のビストル発砲と対峙しながら皇居へと突入していった「血のメーデー」を見て、も明らかなように、われわれの先輩達が、文字通り流血をもとめせず実力闘争へと起ちあがっていったのがメーデーの歴史である。

国鉄労働運動の 戦闘的再生をかちとろう

今日、こうしたメーデーの歴史をぬりかえようとする革マル―鉄道労連、今秋



右翼的労働戦線統一を粉碎し、中曾根を打倒せよ！
（写真は千葉中央メーデー）

全労連結成策動を断じて許さずたたかいぬかなくてはならない。資本―当局にいかすりよったとしても、首切り攻撃と対決できる訳がない。ましてや、労働者の権利獲得など空語である。いまこそ、国鉄労働運動の戦闘的再生を動労総連合を軸にかちとろう。「四・七」土屋粹のデッチ上げを許さず、当局―革マル一体となった不当な労務政策を打ち破ろう！

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！